

資料1

平成29年3月17日

警 察 庁

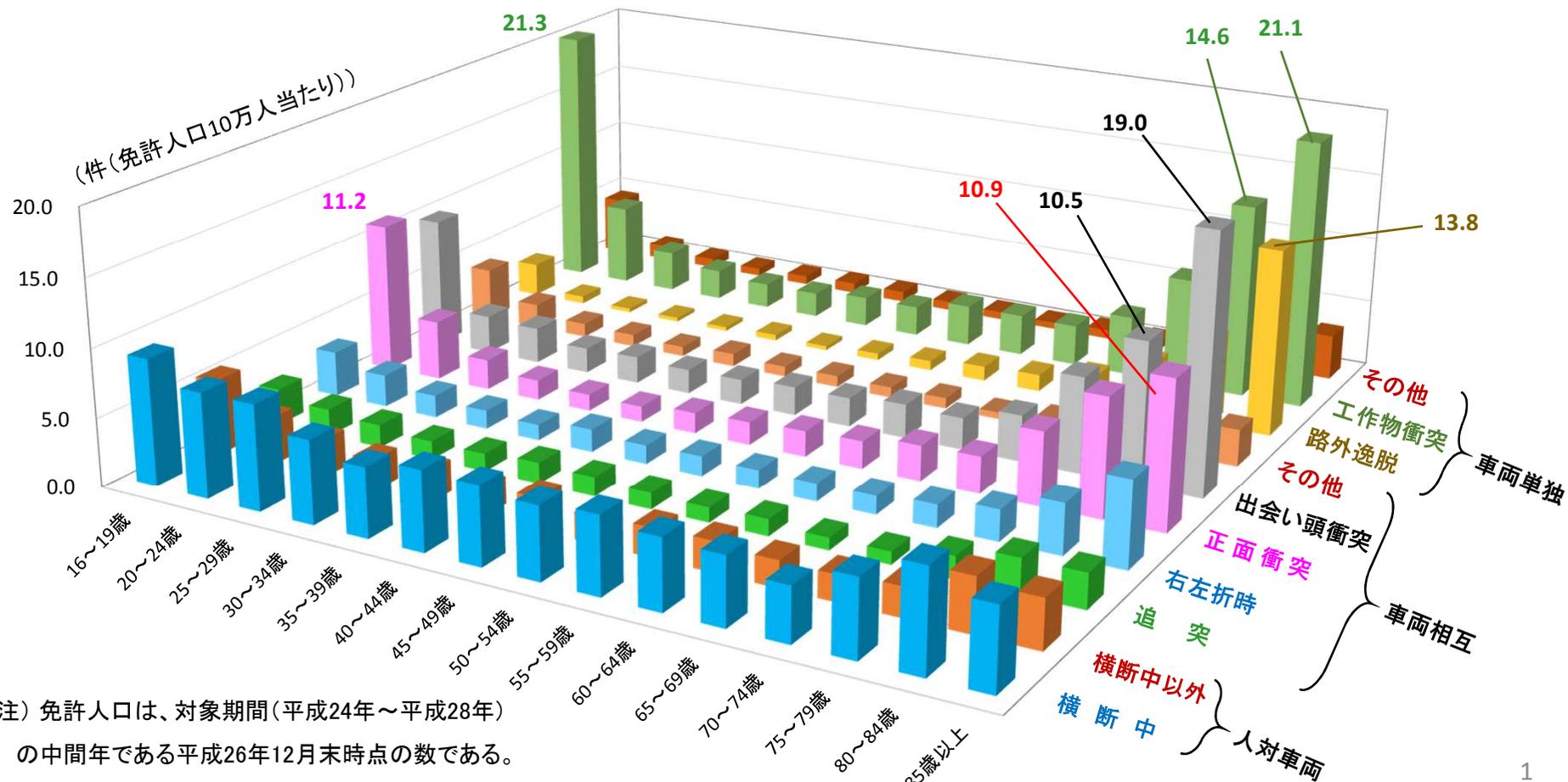
高齢運転者に係る交通事故分析 (平成28年)

1) 全年齢層における類型別死亡事故件数(平成24~28年合計)

- 免許人口10万人当たりの類型別死亡事故件数を見ると、若年運転者では工作物衝突が際立って多く、正面衝突、出会い頭衝突の死亡事故が多い。
- 一方、高齢運転者は全体的に件数が多く、正面衝突や出会い頭衝突、路外逸脱や工作物衝突が特に多く、これらは年齢が上がるほど件数が増加する傾向にある。

図 免許人口10万人当たりの原付以上運転者(第一当事者)における年齢層別・類型別死亡事故件数(平成24~28年の5年合計)

類型別死亡事故件数(免許人口10万人当たり)

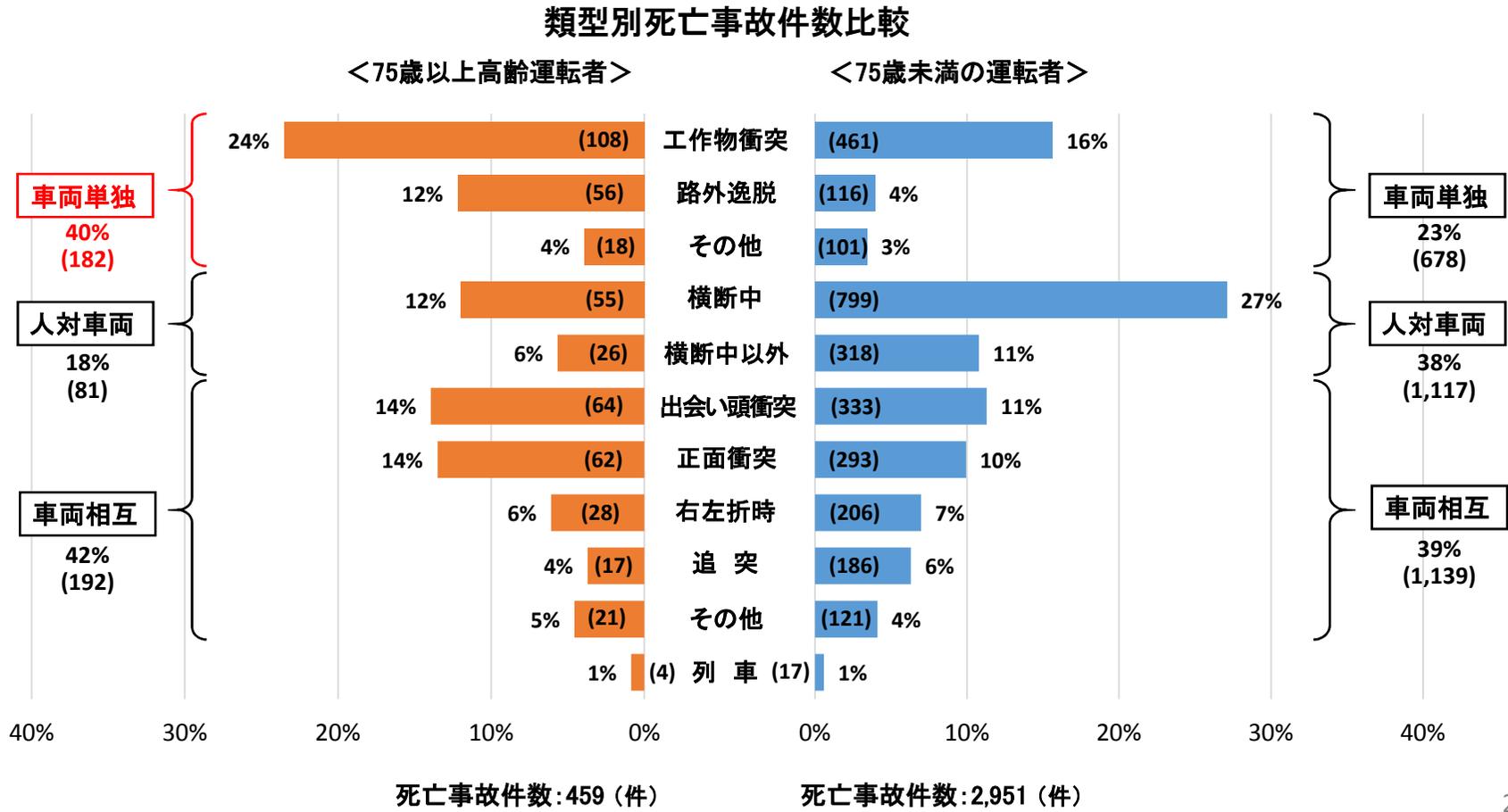


(注) 免許人口は、対象期間(平成24年~平成28年)の中間年である平成26年12月末時点の数である。
以下、本資料において対象期間を5年としているものは同じ。

2) 75歳以上高齢運転者死亡事故の類型別比較(平成28年)

- 平成28年中に発生した75歳以上高齢運転者による死亡事故について類型別に見てみると、75歳未満の運転者と比較して単独事故による死亡事故が多くなっており、具体的類型として工作物衝突、出会い頭衝突、正面衝突の順に多く発生している。
- 一方、75歳未満の運転者による死亡事故については人対車両による死亡事故が多くなっており、具体的な類型として横断中、工作物衝突の順に多く発生している。

図 原付以上第一当事者の類型別死亡事故件数比較(平成28年)

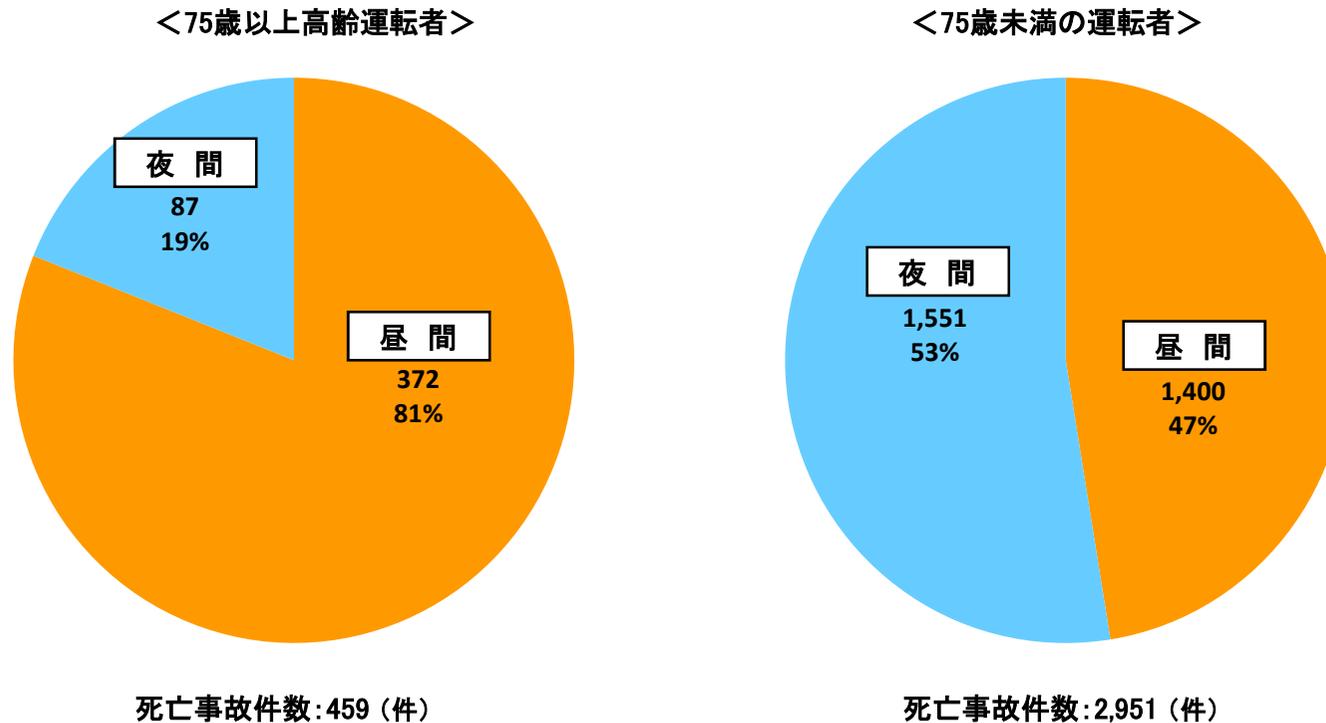


3) 75歳以上高齢運転者死亡事故の発生時間比較（平成28年）

- 平成28年中に発生した75歳以上高齢運転者による死亡事故について、全体の約8割の死亡事故は昼間に発生している。
- 一方、75歳未満の運転者による死亡事故は、夜間に発生する割合が5割を超えている。

図 原付以上第一当事者の死亡事故発生時間の比較(平成28年)

死亡事故発生時間比較



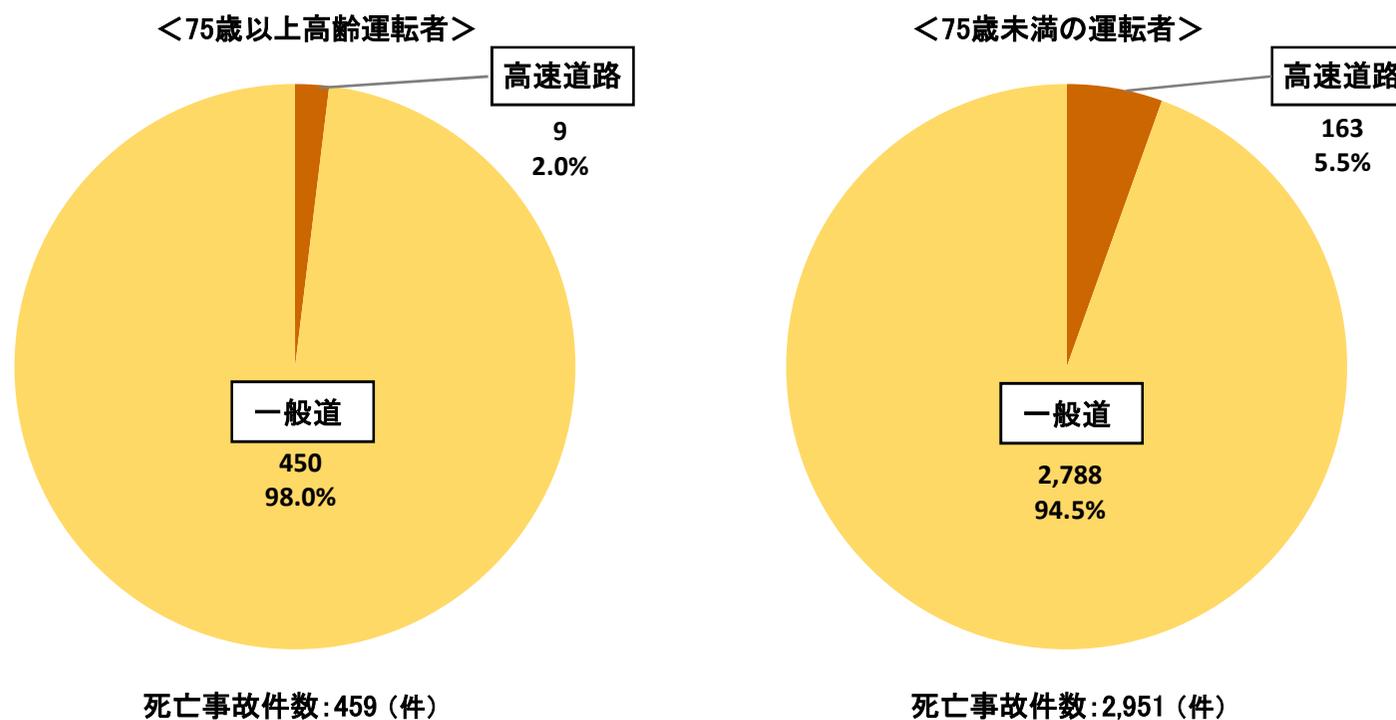
(注)「昼間」とは日の出から日没までを、「夜間」とは日没から日の出までをいう。

4) 75歳以上高齢運転者死亡事故の発生場所比較(1) (平成28年)

- 平成28年中に発生した75歳以上高齢運転者による死亡事故について、全体の約98%は一般道で発生し、高速道路で発生した死亡事故は全体の約2%である。
- 一方、75歳未満の運転者による死亡事故は、全体のうち約6%は高速道路において発生している。

図 原付以上第一当事者の死亡事故発生場所の高速・一般道別比較(平成28年)

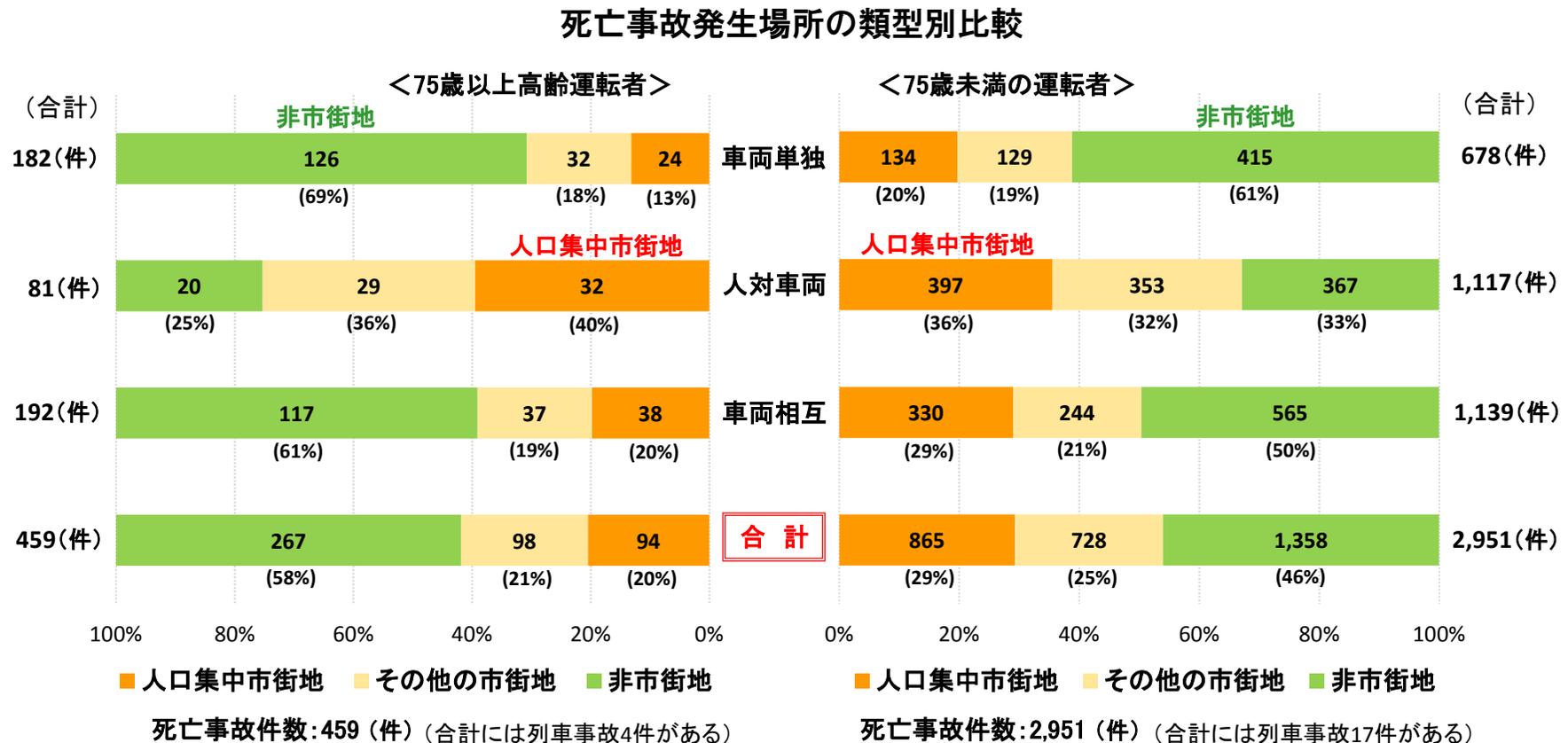
死亡事故発生場所の高速・一般道別比較



5) 75歳以上高齢運転者死亡事故の発生場所比較(2) (平成28年)

- 平成28年中に発生した75歳以上高齢運転者による死亡事故について類型毎の発生場所を見てみると、車両単独、車両相互の死亡事故は非市街地において発生するケースが多い一方、人対車両の死亡事故は人口集中市街地において発生するケースが多い。
- 加えて、75歳未満の運転者による死亡事故と比較すると、概ねの傾向は変わらないものの、75歳以上高齢運転者は非市街地で発生するケースが多い。

図 原付以上第一当事者の死亡事故発生場所の類型別比較(平成28年)



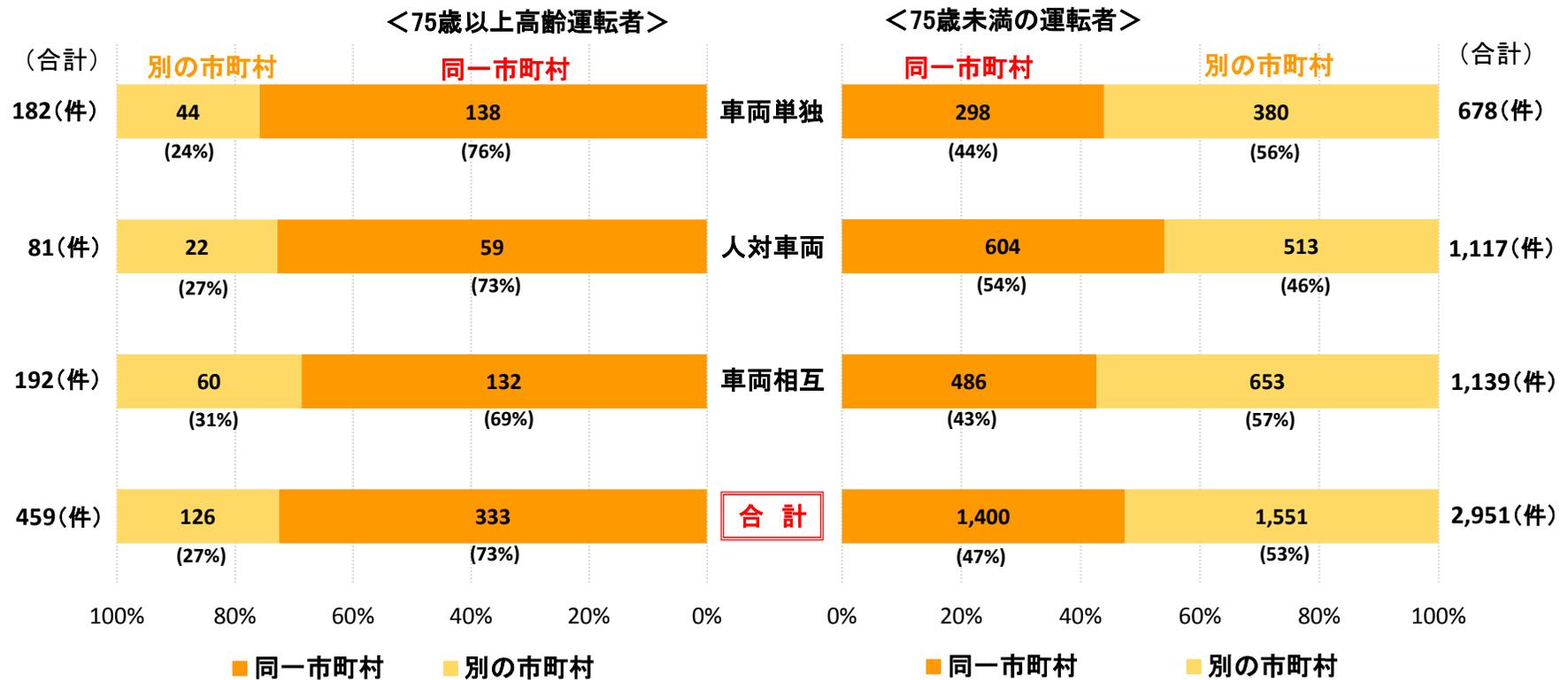
(注) 「市街地」とは、道路に沿っておおむね500m以上にわたって住宅等の建築物が連立している状態であって、その地域における建築物・敷地の占める割合が80%以上になる地域をいい、「人口集中市街地」とは、市街地のうち総務省人口集中地区境界図において人口集中地区として示されている地域(基本単位区の人口密度が4,000人/km²以上、かつ隣接する基本単位区との合計人口が5,000人以上)をいう。また、「非市街地」とはこれら以外の地域をいう。

6) 75歳以上高齢運転者死亡事故の発生場所・居住地比較（平成28年）

- 平成28年中に発生した75歳以上高齢運転者による死亡事故について発生場所と居住地との関係を見てみると、75歳以上高齢運転者は、75歳未満と比較して同一市町村内での死亡事故を起こす場合が多い。

図 原付以上第一当事者の死亡事故発生場所・居住地比較（平成28年）

死亡事故発生場所・居住地比較



死亡事故件数:459 (件) (合計には列車事故4件がある)

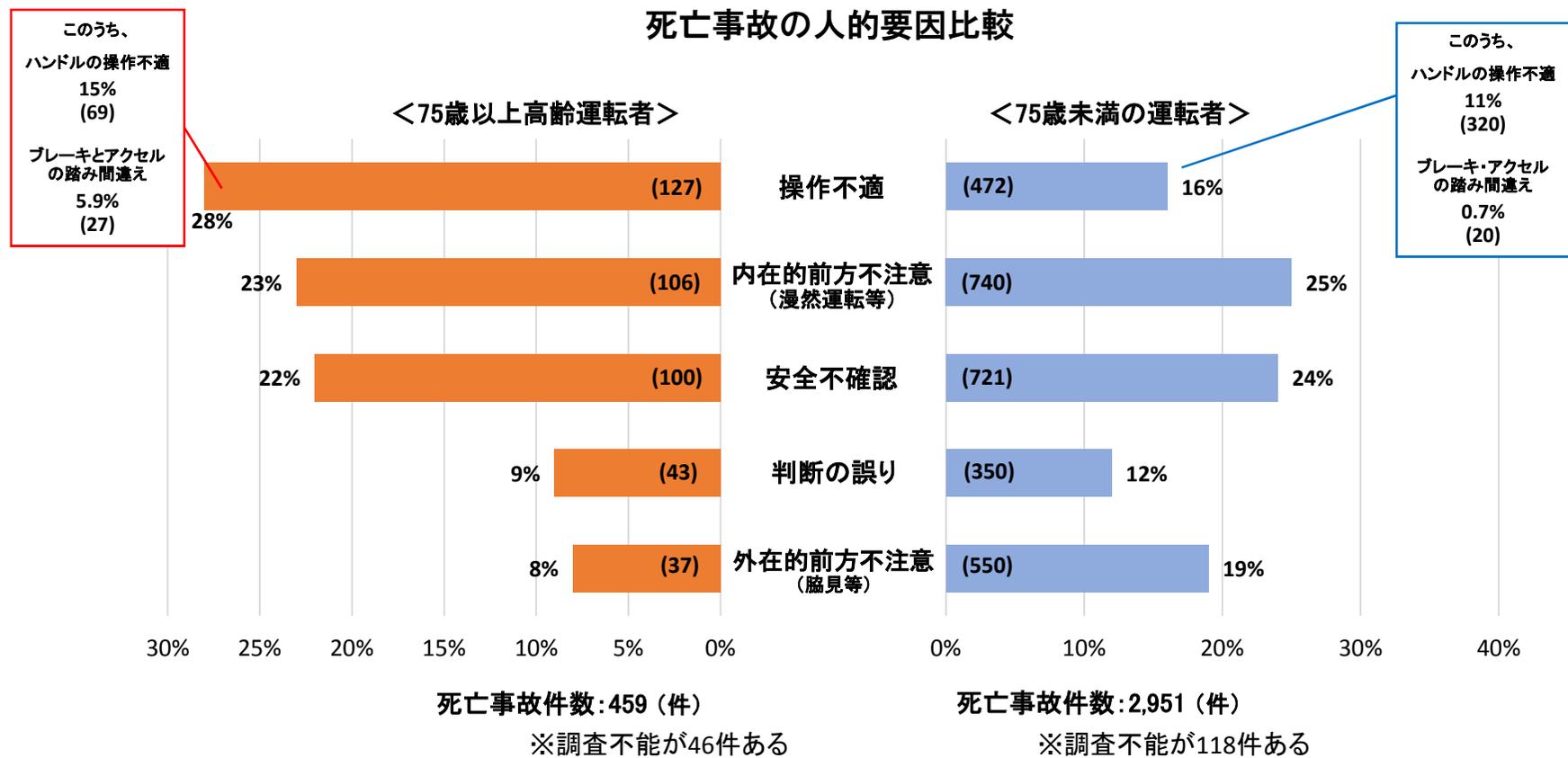
死亡事故件数:2,951 (件) (合計には列車事故17件がある)

※居住地不明者は「別の市町村」に計上した。

7) 75歳以上高齢運転者死亡事故の人的要因比較（平成28年）

- 平成28年中に発生した75歳以上高齢運転者による死亡事故について人的要因をしてみると、操作不適が最も多く、次いで内在的前方不注意（漫然運転等）、安全不確認の順に多く発生している。
- 一方、75歳未満の運転者による死亡事故は、内在的前方不注意（漫然運転等）によるものが最も多く、次いで安全不確認、外在的前方不注意（脇見等）の順に多く発生している。

図 原付以上第一当事者の死亡事故における人的要因比較（平成28年）

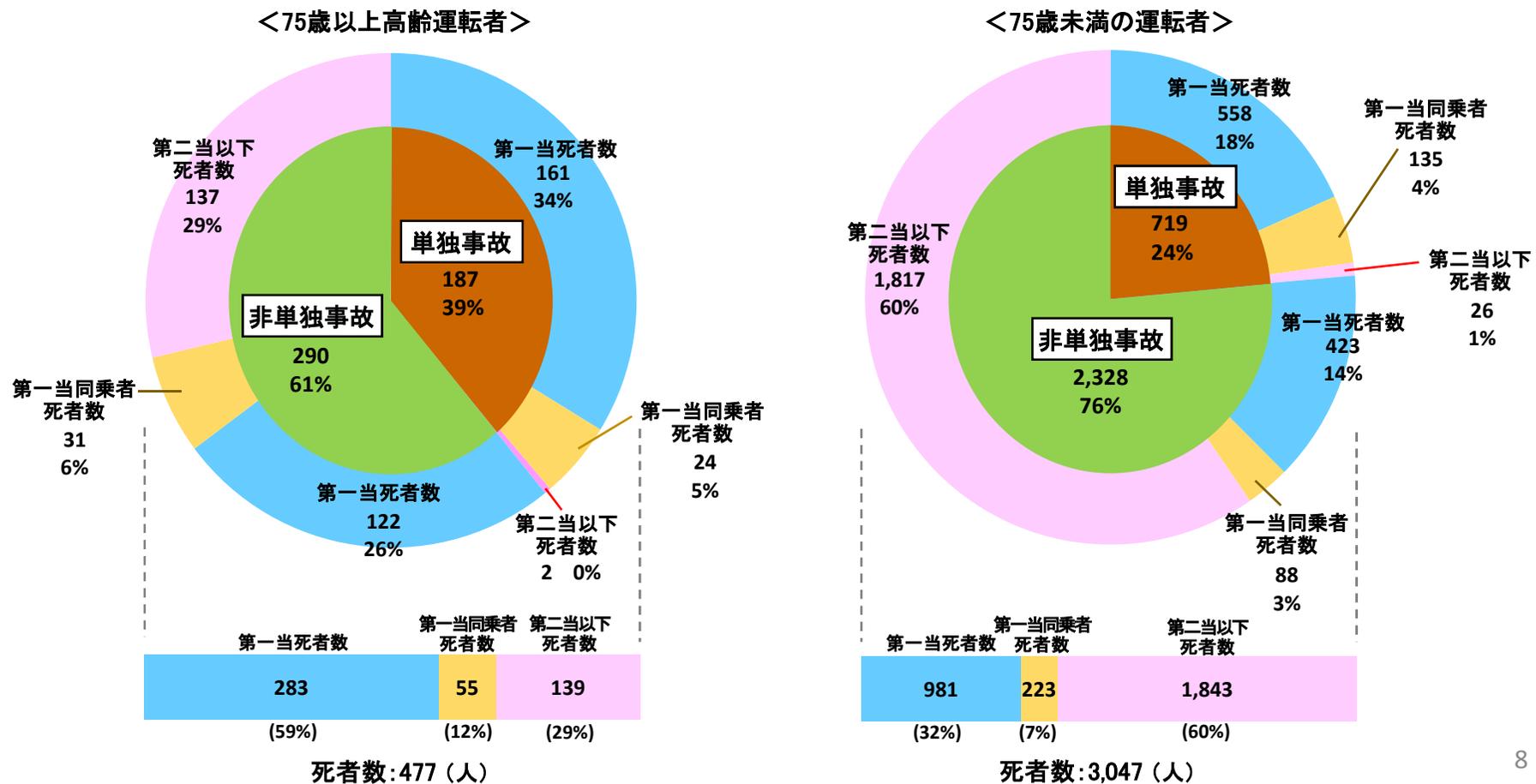


8) 75歳以上高齢運転者死亡事故の当事者別死者数比較(平成28年)

- 平成28年中に発生した75歳以上高齢運転者による死亡事故における当事者別死者について見てみると、全体のうち約39%は単独事故による死者で、75歳未満の運転者と比較して高い割合を占めているほか、第一当事者の死者数が多い。
- 一方、第二当以下死者数は、75歳未満の運転者による死亡事故で割合が高い。

図 原付以上第一当事者の死亡事故における当事者別死者数比較(平成28年)

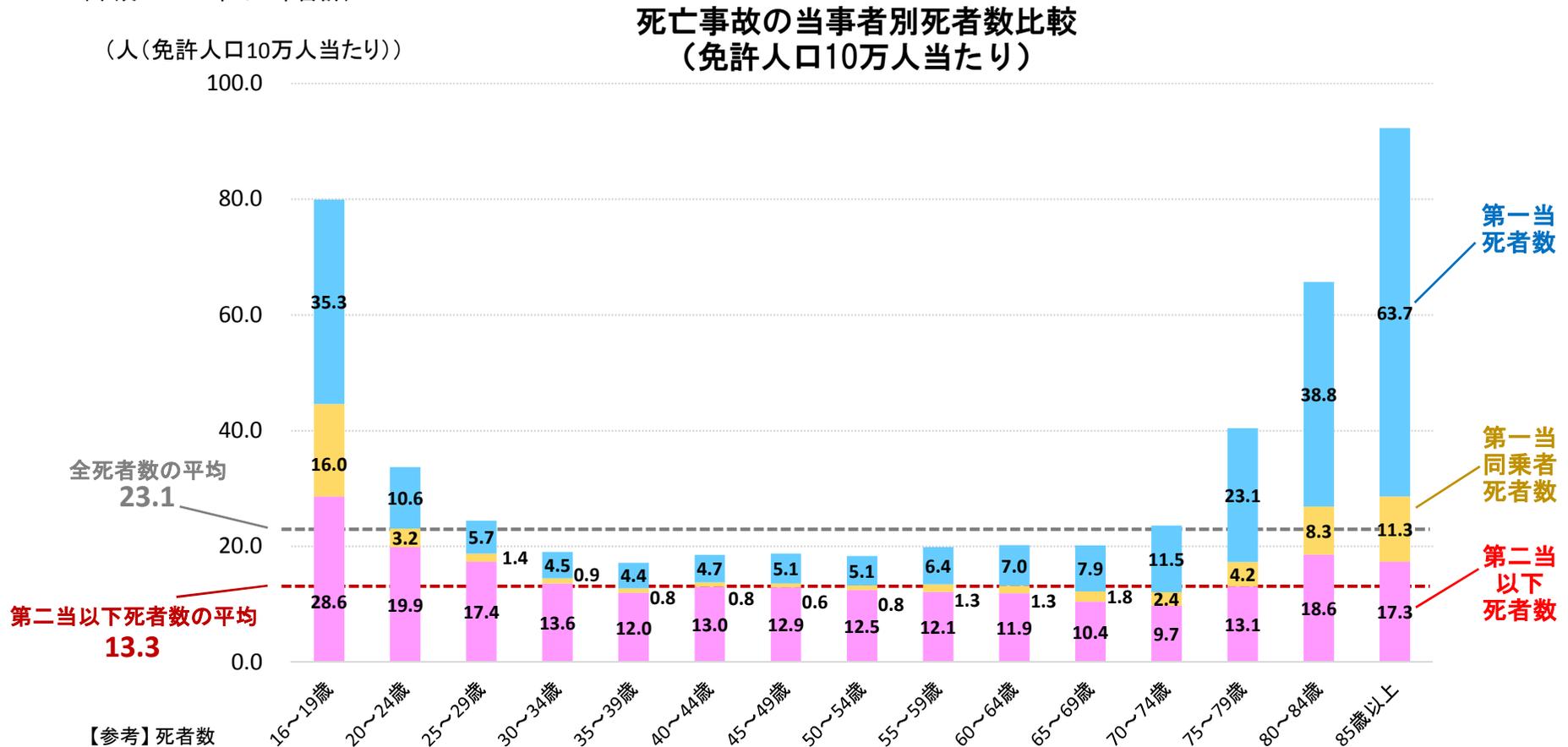
死亡事故の当事者別死者数比較



9) 全年齢層における当事者別死者数(1)(平成24~28年の5年合計)

- 免許人口10万人当たり死亡事故における各当事者の死者数について、75歳を境に、第一当事者死者数が同乗者・第二当事者以下死者数を上回る。
- また、第二当事者以下死者数は、16歳から34歳、80歳以上の年齢層で多くなる。

図 免許人口10万人当たりの原付以上運転者(第一当事者)死亡事故における第一当事者、第一当事者同乗者、第二当事者以下死者数比較(平成24~28年の5年合計)



【参考】死者数

第一当	349	509	340	318	360	441	417	366	436	513	561	557	618	515	305
第一当同乗者	158	154	84	64	62	73	52	57	90	94	126	116	112	110	54
第二当以下	283	953	1,039	951	978	1,211	1,049	898	820	871	737	470	349	246	83
合計	790	1,616	1,463	1,333	1,400	1,725	1,518	1,321	1,346	1,478	1,424	1,143	1,079	871	442

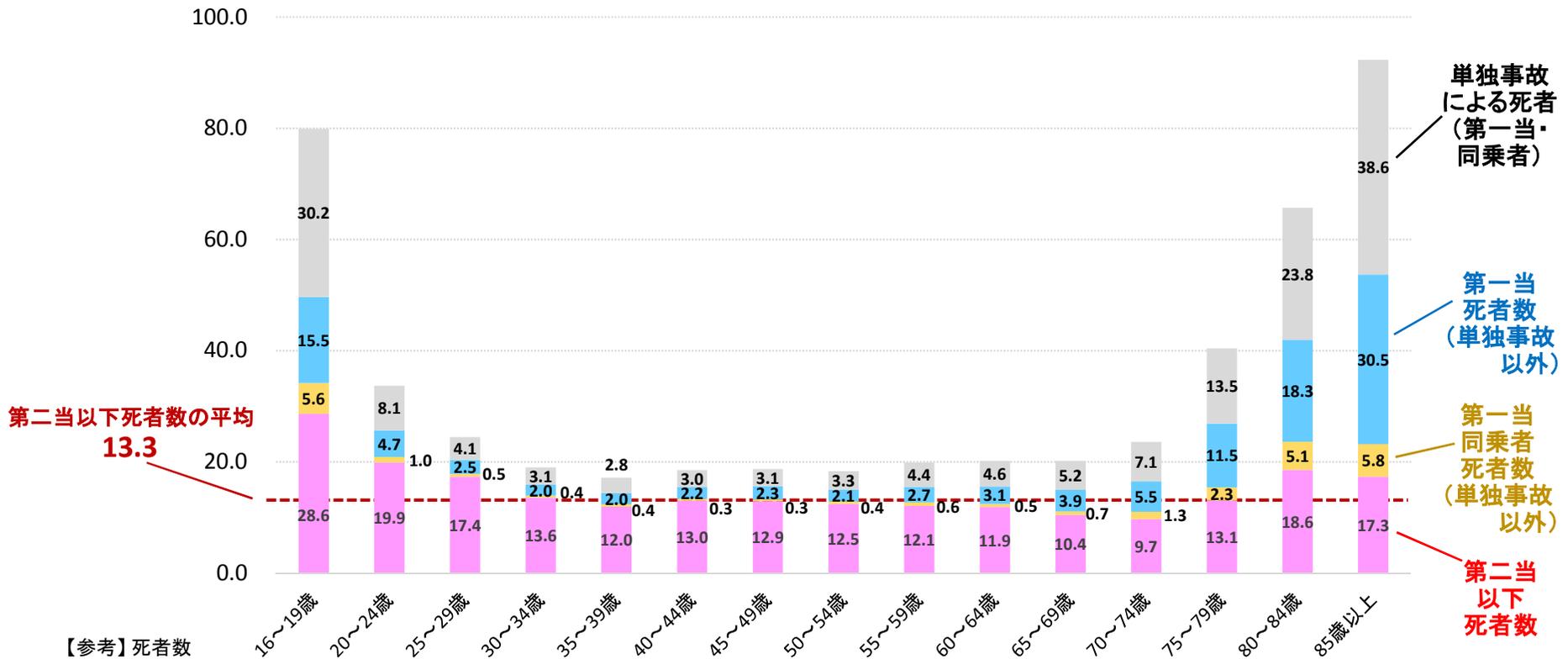
10) 全年齢層における当事者別死者数(2)(平成24~28年の5年合計)

- 免許人口10万人当たり死亡事故における各当事者の死者数について、16歳から19歳、75歳以上の年齢層は特に単独事故によるものが多くなる。
- また、第二当事者以下死者数は、16歳から34歳、80歳以上の年齢層で多くなる。(再掲)

図 免許人口10万人当たりの原付以上運転者(第一当事者)死亡事故における第一当事者、第一当事者同乗者、第二当事者以下死者数比較(平成24~28年の5年合計)

死亡事故の単独・非単独事故別の当事者別死者数比較 (免許人口10万人当たり)

(人(免許人口10万人当たり))



【参考】死者数

単独事故	299	388	245	220	226	280	255	239	297	339	365	344	361	315	185
第一当(単独以外)	153	226	149	137	163	203	189	153	186	229	275	265	307	243	146
同乗者(単独以外)	55	49	30	25	33	31	25	31	43	39	47	64	62	67	28
第二当以下	283	953	1,039	951	978	1,211	1,049	898	820	871	737	470	349	246	83
合計	790	1,616	1,463	1,333	1,400	1,725	1,518	1,321	1,346	1,478	1,424	1,143	1,079	871	442

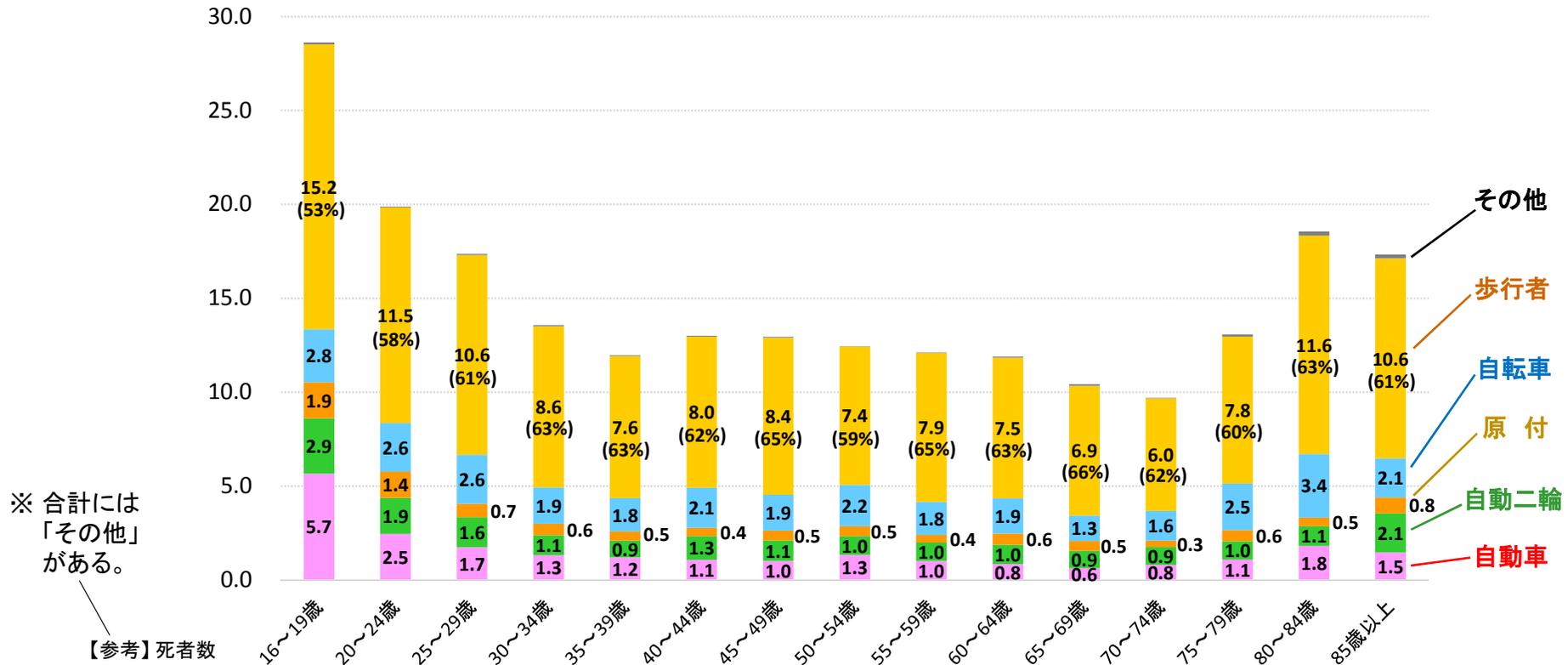
11) 全年齢層における当事者別死者数(3)(平成24~28年の5年合計)

- 免許人口10万人当たり死亡事故における第一当事者及び同乗者を除く死者数の状態別内訳をしてみると、どの年齢層においても歩行者を死亡させる事故が最も多く、また、若年運転者については自動車乗車中の相手方を死亡させる事故が比較的多い。

図 免許人口10万人当たりの原付以上運転者(第一当事者)死亡事故における第一当事者及び同乗者を除く第二当事者以下死者における状態別比較(平成24~28年の5年合計)

死亡事故の第一当事者及び同乗者を除く死者における状態別死者数比較(免許人口10万人当たり)

(人(免許人口10万人当たり))

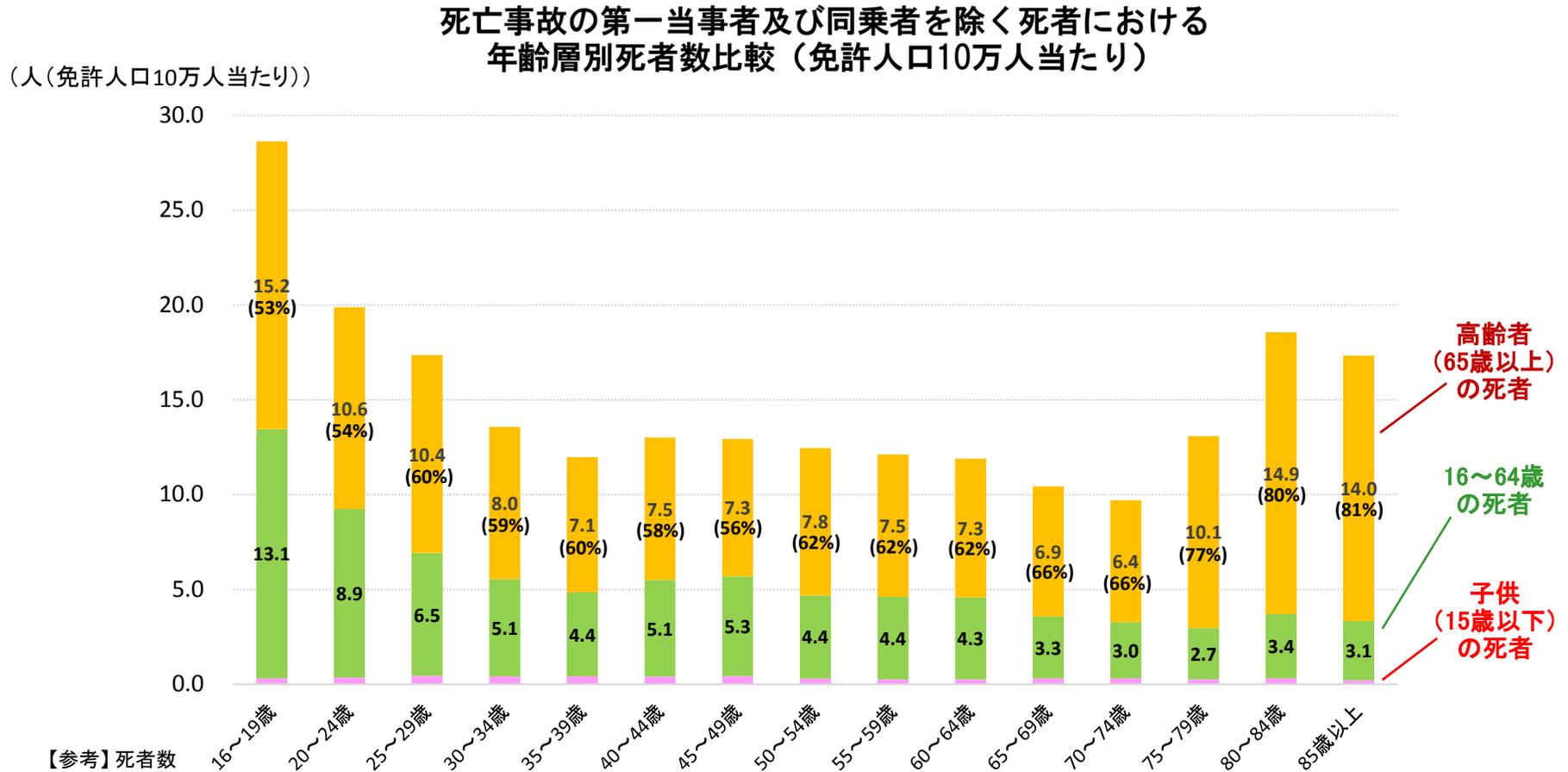


【参考】死者数	16~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85歳以上
歩行者	150	550	637	601	618	749	678	532	536	549	489	290	209	154	51
自転車	28	125	156	136	145	200	155	159	120	137	95	77	66	45	10
原付	19	66	43	43	40	40	42	37	27	44	37	16	16	6	4
自動二輪	29	92	96	75	73	118	89	73	66	75	65	46	26	14	10
自動車	56	118	104	92	98	100	82	96	69	62	45	39	29	24	7
合計	283	953	1,039	951	978	1,211	1,049	898	820	871	737	470	349	246	83

12) 全年齢層における当事者別死者数(4)(平成24～28年の5年合計)

- 免許人口10万人当たり死亡事故における第一当事者及び同乗者を除く死者数の年齢層別内訳を見てみると、どの年齢層においても高齢者を死亡させる事故が多い。

図 免許人口10万人当たりの原付以上運転者(第一当事者)死亡事故における第一当事者及び同乗者を除く第二当事者以下死者における年齢層別比較(平成24～28年の5年合計)



15歳以下	3	17	26	29	33	37	34	21	17	18	22	15	7	4	1
16～64歳	130	426	388	360	362	475	427	317	295	317	230	144	72	45	15
65歳以上	150	510	625	562	583	699	588	560	508	536	485	311	270	197	67
合計	283	953	1,039	951	978	1,211	1,049	898	820	871	737	470	349	246	83

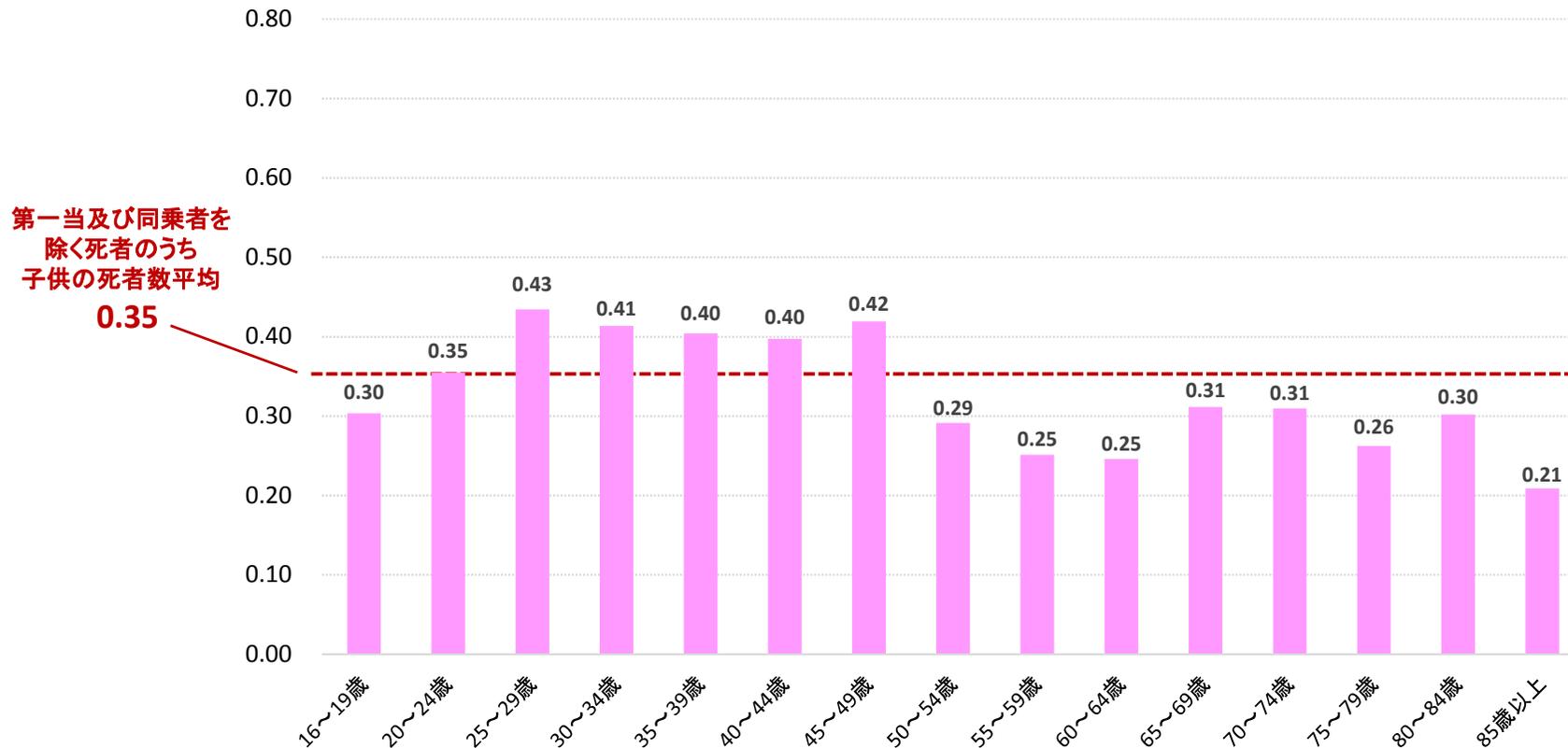
13) 全年齢層における当事者別死者数(5)(平成24~28年の5年合計)

- 免許人口10万人当たり死亡事故における第一当事者及び同乗者を除く死者数のうち、子供の死者数について見てみると、50歳以上の運転者による子供死者数は、全年齢層の子供死者数平均を下回っている。

図 免許人口10万人当たりの原付以上運転者(第一当事者)死亡事故における第一当事者及び同乗者を除く第二当事者以下死者のうち、子供(15歳以下)の死者数比較 (平成24~28年の5年合計)

死亡事故の第一当事者及び同乗者を除く死者のうち 子供の死者数比較 (免許人口10万人当たり)

(人(免許人口10万人当たり))



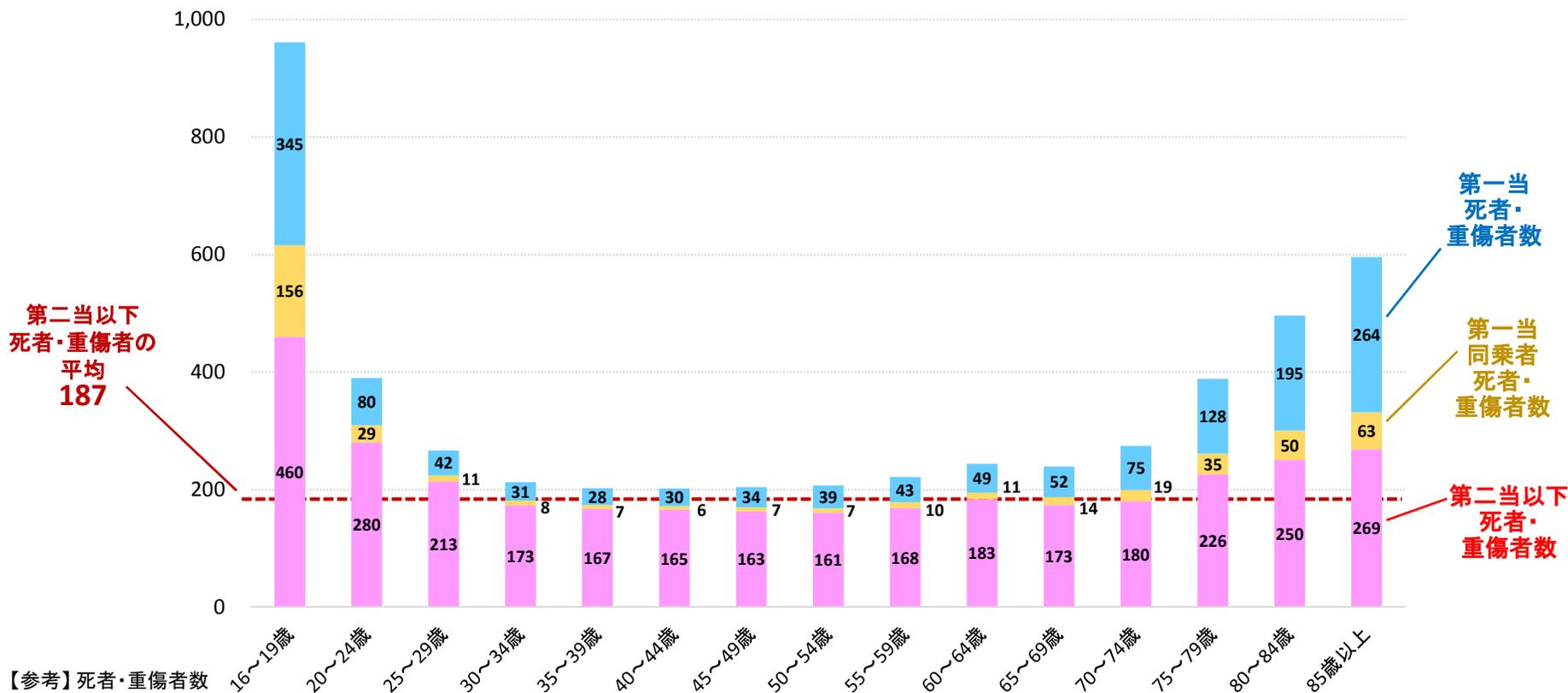
14) 全年齢層における当事者別死者数(6)(平成24~28年の5年合計)

- 免許人口10万人当たり死亡事故における第一当事者、同乗者、第二当事者以下の死者・重傷者数を比較すると、第二当事者以下死者・重傷者数は16歳から29歳、75歳以上の年齢層が多い。

図 免許人口10万人当たりの原付以上運転者(第一当事者)交通事故における第一当事者、第一当事者同乗者、第二当事者以下死者・重傷者数比較(平成24~28年の5年合計)

交通事故の各当事者別死者・重傷者数比較
(免許人口10万人当たり)

(人(免許人口10万人当たり))



【参考】死者・重傷者数

第一当	3,413	3,847	2,511	2,175	2,320	2,797	2,763	2,798	2,925	3,584	3,651	3,627	3,404	2,590	1,266
第一当同乗者	1,541	1,393	655	564	564	599	551	525	659	832	984	939	925	668	300
第二当以下	4,550	13,448	12,772	12,153	13,633	15,412	13,222	11,587	11,400	13,434	12,260	8,715	6,039	3,317	1,287
合計	9,504	18,688	15,938	14,892	16,517	18,808	16,536	14,910	14,984	17,850	16,895	13,281	10,368	6,575	2,853